

1. この会社が目指す姿が理解できるか

結論として私は当社の目指す姿は十分に理解できると感じた。“高い技術をもって社業の発展を図り、健全な経営により社会的責任を果たす”という企業理念に則り、“社会を支え、人と世界をつなぎ、未来を創る”との長期ビジョンのもと、ESG 経営を推進している。受注・利益等の経済価値の創造に加えて、社会ニーズに応えることで新たな社会価値を創造し、これにより総合的な企業価値の向上を目指している。ESG 経営の取り組みとしてはまず、環境保護が挙げられる。当社はしっかりと将来に向けてCO2の具体的な削減量を掲げており、環境事故0、環境法令違反0といった目標も掲げている。次にESGのSであるsocialについてであるが、労働災害度数率など具体的な数値を用いて労働安全衛生の目標を掲げており、また当社独自の労働安全衛生マネジメントシステムに基づいた活動を行っていくことを述べている。最後にガバナンスの面においてもこれから行っていく活動の詳細について述べており、この会社が目指す姿が十分に理解できるようになっている。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

結論として、この統合報告書からは当社の競争優位性を理解することは難しかった。東亜建設工業は自社の強みとして、各事業の横のつながりを挙げている。それぞれのノウハウ、経験を活かし、多角的にアプローチし、「土木」「建築」「海外」の三位一体でビジネスを進めているようだ。しかしこのような説明だけでは十分に当社の強みを理解することはできないだろう。当社が高い技術力を持っていることは当社が受賞した数々の賞からわかるものの、その高い技術力を生み出している理由について詳細な記述が見られなかった。ただ顧客は公的機関や大企業が多く、国家的プロジェクトと言えるような工事も多く手掛けていることから、当社がこの業界において不可欠な存在であり、大規模な土木工事が可能となるノウハウを有していることがわかる。また、近年は洋上風力の建設や海底資源開発の分野にも着手し、事業の拡大を図っているようだ。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

結論として、当社はこれらの競争優位性を持続する力は持っていると感じた。これらの競争優位性には持続性があると私は考える。まず当社の業績から見ても、これらの事業を推進する力はあると考えることができる。また当社は長い歴史を有しており、長年培ってきたノウハウもある。当社は「次世代が働きやすい職場環境作り」にも取り組んでおり、積極的に若者や女性を登用していることから推進力にも問題はないだろう。ただ一方で、先にも述べた

ようにこの統合報告書からは根本的な競争優位性に関する記述が少なく、それについての記述をもっと増やすべきと感じた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私はこの統合報告書から、当社で自身の人的資本の価値向上を計ることは可能だと感じた。その理由として、東亜建設工業は若手社員を海外現場に3カ月間派遣するOJT研修を設けており、グローバルな人財の育成に力を入れていることが挙げられる。この制度を経験した若手は、海外のマネジメント手法などを幅広く学び、その後の業務に活かすことが期待される。また高度な専門知識の習得を目的に、社員を社会人大学院に派遣している。個々人のキャリア形成を図り、高度な専門知識を身につけたスペシャリストを養成している。会社の社員育成の取り組みについての記述は見られたが、もう少し詳細なキャリア形成のための取り組みについても言及すればより良いのではないのかと感じた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体としてイラストや図やグラフを用いてわかりやすく説明がなされていたが、本当に強調したい部分がよく見えてこなかった。文章としては読みやすいが、構成としては単調となっているので主に伝えたいことを太字にするなどして読み手の注意を惹くのが良いと考えられる。財務情報や実績に関しては詳細な記述がありわかりやすかったが、非財務情報に関する記述が少なかつたため、そこに関する記述がもっとあればより良いものとなるだろう。また上記にもあるように、当社の競争優位性がどこから生まれているのかに関する記述がなかったため、実績など表面的なことばかりでなく根本的な強みについての記述があると良いと感じた。